

# 宮城県泉館山高等学校



戦国時代の城館「長命館跡」。校名「館山」の由来でもある

「生きる力」を育む理科教育の実践  
— ミミズ堆肥作りで小・高の学校間を点と点で取り持ち主体性と協働性を養う —

## ミミズで広がる共同研究の輪

### 近隣校と合同研修会を実施

5月14日、宮城県泉館山高等学校の生物室で、近隣の宮城学院中学校高等学校自然科学班を招いたミミズ堆肥研究の合同研修会が行われた。研究2年目となる泉館山高校総合科学部ミミズ班の部員が腐葉土と廃棄物を堆肥に変えるミミズコンポストを披露。研究初年度である宮城学院のメンバーは、最初こそミミズに触ることにためらいを見せていたものの、15分ほどで慣れてしまった。同研究を指導する大阪公立大学大学院農学研究科の東條元昭教授は「ミミズの生態や効用を知れば、すぐに慣れてしまうものです」と微笑む。

泉館山高校の部員も「新たなミミズの知識や自分たちは違う視点を知ることができた」(2年・太田雄琉<sup>おおたたる</sup>さん、柏葉蒼介<sup>かしわばそうすけ</sup>さん)と交流に意義を見いだしていた。



泉館山高校総合科学部と宮城学院中学校自然科学班。別日には宮城県岩ヶ崎高校も合流して東條教授の研修を受けた



宮城学院の生徒もすぐに慣れ、「大きいミミズ見つけた!」と声を上げる



●実施担当

塗田永美 教諭

●活動のモットー

最後まで粘ること、研究を文章や記録として残すこと。記録に残すことで研究は「個人の経験」から次世代に渡る「財産」になる。

学校概要



「自立 敬愛 貢献」の校訓のもと、何事にも誠実に取り組む校風で文武両道の伝統を受け継ぐ地域屈指の進学校。

設立:1983年  
生徒数:720人  
所在地:宮城県仙台市泉区長命ヶ丘東1番地



多段式ミミズコンポストの各段での卵の数の違いなどを調べる

### 尽きないミミズへの興味

同研究には宮城県岩ヶ崎高等学校も参加しており、コンポストを区画してエサごとのミミズの生育を調べるなど、異なる視点での実験を実施。学会などで成果を共有する。担当の塗田永美教諭は「できた堆肥は近隣小学生が育てる緑のカーテンの培土にします」と、さらなる輪の広がりを誇る。

今年度、泉館山高校ミミズ班(いずれも2年)は昨年度に引き続いてコーヒーかすをエサにした研究を進める。半崎優杏<sup>はんざきゆうあ</sup>さんは「コーヒーかすの有効性をきちんと証明したい」と意気込む。一方、菊地優花<sup>きくちゆうか</sup>さんは「コーヒーかすだけを与えると、最初、ミミズはコーヒーかすから逃げたのですが、しばらく放置しておくとおく食べた形跡があって、その不思議な生態に興味が高まりました」と話す。後を受けた安倍優衣<sup>あべゆうい</sup>さんは「暗くしておかないと食べないなど、どんな条件が必要なのかを解明したいです」と、ミミズへの興味が尽きない様子で話してくれた。(複数校連携助成2年目)



日本動物学会東北支部でのポスター発表



地域の科学イベントにも参加して臨機応変な対応力やプレゼン力を磨いている

この活動は、中谷財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人 中谷財団

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

中谷財団

検索



シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎が私財を投じて設立。BME(Bio Medical Engineering)分野の発展を願い、表彰事業をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、小中高校生の科学探究活動に対し助成事業を行っている。2024年に設立40周年を迎え、「中谷財団」に名称を変更した。